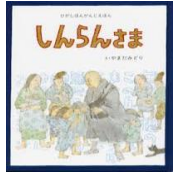




喜びたかく 胸にあふれ うれしさふかく きもに銘ず
身は粉にほねは 砕きてしも 報いがたなき
きみがみ徳 「報恩講の歌」より



総代会・世話方会 新しい年の始めに、存仁寺門信徒を代表してご挨拶申し上げます。三帰依文の下りに、「人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く」とあります。私たちは、自らが信心として受け、子供、孫達にその心を継承する心構えがあるのでしょうか？ 現代社会は、無縁社会故に「仕方ない世の流れ・・・」と諦めているその私が評論家になり、今ここに存在しているのではないのでしょうか？「家族葬、通夜の無い一日葬、直送」などの言葉が、当然のように日々の会話の中で飛び交っているのも事実です。長年の間、苦楽を共にした家族との別れ、ましてやこの世に生を授けて下さった父母との別れ……。その父母への最後のご恩返しの葬儀やご報謝を簡略化する現代社会の殺伐とした風潮。核家族化が進み、現代社会がそのようにさせてしまったのだと、社会の責任にしてよいのでしょうか？ 今の私たちは、何を考え、何を行動したら良いのでしょうか？私自身、この三年間の間に父母との辛い別れをいたしました。この1月7日には、母の一周忌法要を営みます。数え切れない程の多くのお世話になりました。思い出せば辛くなる一方の日々の暮し。まだ、父母は心の中に生き続けているのだ！と思うことにより、自らの心を癒す毎日です。浄土へ赴いた故人は、日が経てば経つほどその「生命の輝き」は、増すと言われます。その輝きこそ、阿弥陀如来さまのもとに行かれた故人が残された私達家族に付き詰め守り詰めでお護り頂いているこの御恩に報謝することこそが、朝に夕に「南無阿弥陀仏」を称え合掌することだと思います。「葬儀、報謝」は何故するのか？ご先祖さまになられた故人へ「元気にやっています」と報告。そして、やがて浄土へ赴く自分自身の信心としての勤めだと思います。しかし、人間は愚かなものです。ついつい社会の流れに惑わされ自分の都合の良いように解釈してしまうのです。「家族葬」だからご近所にはお知らせしなくても良い！そうでしょうか？父母や祖父母もそのようにしたのでしょくか？ 会葬者が少ないから。葬儀経費が安いから「家族葬」？違うと思います。家族、親戚が、ご近所の方々が心から故人に対する御恩報謝の気持ちで姿形がある最後の日に最後のお別れをする。それが「葬儀」であり、「法事」であると思います。私たちの勝手な言葉や解釈で「一般葬」だ「家族葬」だと区別することはおかしいのです。私の父母の葬儀には何百人もの多くの方々がご会葬にご参列頂きましたが、私自身は、「家族葬」だと思っています。それは、故人の生前の思いと私自身の考え方が一致していると考えたからです。浄土真宗本願寺派は、親鸞聖人の教えを永遠に承継するため門主さまを中心に門信徒の皆さんの聴聞の場が、他宗派より多くあり、連続研修や本山の奉仕活動など他には類をみない修行の機会をお与え下さっている親鸞聖人さまのご慈悲だと思います。このような教えに基づき、現世を生かさせていただいている私たちが今、まさに、子供や孫に「承継」することが大切ではないのでしょうか？ご門徒の皆様方には、お寺の護持運営には深いご理解とご支援を頂戴し誠にありがとうございます。書院の老朽化対策をはじめ、新しい門信徒さまへの選択肢としての「合同納骨堂」の建設など護持の施策が山積する中、皆様方のより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。合掌



存仁寺責任役員 横山仁司

仏教婦人会



明けましておめでとうございます。平素は仏教婦人会活動にご協力を頂き感謝申し上げます。御住職様、坊守様、先輩方に多くの御迷惑をおかけしながらの、仏様とのご縁を学ばせて頂く毎日です。今年も皆様と共に少しでも成長できればと思っております。本年も宜しくお願い申し上げます。合掌

会長 堀裕子

仏教壮年会



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。年頭にあたり、健康を念願すると共に、存仁寺仏教壮会奉仕活動においては、京都ご本山、名古屋別院奉仕活動、寺院内での例会等、昨年同様皆様のご協力をいただきワンランクアップした内容の充実、参加者の増加に務めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。合掌

会長 吉井教生

門徒推進員会



新年明けまして おめでとうございます。人生にはつまずきも、より道もその多くに戸惑い、あたふたと過ぎた一年。運命でもさずかりでもなく只その時のご縁と受けとめ、友達・家族・廻りの方たちのやさしさに手を合わせ、「ありがとう、またネ」の言葉の重みをかみしめながら、残る人生「まあ、ボチ・ボチ」「まあ、いいか」と歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。合掌

会長 保地万千子

朝やけの 窓辺によりそう友ありて 喜び分け合い 明日への希望

無量寿会

あけまして おめでとうございます。4月より丸橋様から会長を引き継がせていただき、諸先輩方の御指導や、皆様の御協力を頂き回を重ねさせて頂きました。今年もいろいろなご縁を頂きながら、楽しいひと時を過ごして頂けるようすすめていきたいと思ひます。み仏のあたたかい御手にいだかれながら、皆様の笑顔あふれる会になるようつとめさせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。合掌

合掌

会長 井関照代



記念の年

平成二十九年一月五日（木）

ありがとう

・私達夫婦が結婚したのは昭和四十二年
私は二十三歳、妻は二十歳（一九六七年）
道庁側の自治会館にて結婚式を挙げた
今年は、記念すべき五十年の年になる

・当時の私の給与は、手取り一万数千円
薄給の私は、酒もタバコも賭け事もしない
給与の半分（七千円）は部屋代に消えた
何度か、両親に生活の援助を頂いた

・待望のあかちゃん女子・男子に恵まれた
子供の成長が糧となり、日々一層頑張った
妻には申し訳ないが、子育ては妻の役目
社会に旅発つ娘、息子を見て夫婦涙した

・子供のしつけ、ご近所との付き合い
モノの考え方、見方で毎日が意見の相違
でも、結局は、最終的には妻の言う通り
苦節五十年の月日が、夢の中に経った
ママ（妻）・娘・息子ありがとう

ゆく年や 満天の星 またたける
落ち葉踏み 過ぎゆく今の 音を聴く
クリスマス 讃歌唄ひて 仏徒たり
人生は 凛と気合の 冬木立
余生なお 燃ゆるものあり 実南天
初春や 足も弾みて 寺詣で
新春の 仏間香煙 ただよえり

落合登代子



今年は私共夫婦
にとって記念す
べき年になりま
す。それは、結婚
して五十年にな
るからです。

今は、唯々ありが
たうの言葉しか
思いつきません。

北海道

大島義勝さん